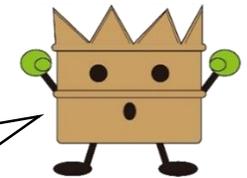


太陽が昇る朝、それを呼ぶとされていた動物のお話だよ。



常光坊谷4号墳で出土した雄鶏形埴輪

ただ、昔の人々は森羅万象全てに「神」の存在があると信じ、その中でも太陽が昇ることのありがたさや太陽を呼ぶとされていた鶏の存在を崇めるほど、陽光の射す世界は貴重で大切だったと考えられます。
みなさんは毎日の始まりの朝に何を感じますか？過密な予定や忙しさに朝が来ることが億劫に感じたりすることもありませんか？そんな時、古墳時代の人々に倣い、朝を迎えることができる喜びを少しでも感じられたら、その日の始まりがちょっと前向きになれるかもしれません。（担当）

【太陽を呼ぶもの】

動物埴輪の中で最も早くから埴輪になった生き物は何でしょうか。それは「鶏」です。ではなぜ鶏なのでしょう？この質問をはにわ館に見学に来た子どもたちによると、「赤と白で縁起がいいから」とか、「卵を産んでくれるから」などなど、現代の価値観で答えを出してきます。子どもらしく一生懸命考えてくれるのでとてもうれしくなります。

しかし、古墳時代の「鶏」の存在は今とは全く異なるものでした。今回は再びF先生に登場していただき、昔の人々にとっての「鶏という存在」について教えてもらいましょう。

教えて！F先生
太陽を呼ぶもの編



【9月 長月】

夏休みも終わり、朝夕に秋の気配を感じる季節がやってきました。秋の夜長、お月見はいかがでしょう。今年の中秋の名月は、9月21日で満月になるそうです。ススキやお月見団子などをお供えし、月を愛でるひと時を過ごしてみましょ。



はにわ館では、第1展示室の「宝塚古墳の謎」について、動画による中学生ボランティアガイドを行っています。8月6日に市内3校の4人が、古代服と勾玉の首飾りを身に付けて撮影にのぞみ、緊張しながらも丁寧でわかりやすい展示の解説を収録しました。来館された方が、お手持ちのスマートフォン等で掲示してある二次元コードを読み取っていただくと、収録された中学生のガイドを視聴できます。公開期間は、9月23日までです。ご来館いただき、お試しください。



(動画撮影風景)

ギャラリーでは、松阪市美術展覧会の第1部が開催されます。感染対策を十分に守り、芸術の秋を楽しみに文化財センターにお越しください。（所長）

現在は文明が発達し、地球が自転していること、太陽の周りを公転していること、それにより夜が明けることは誰もが知っていますが、ポーランドの天文学者コペルニクスが「地動説」を唱えたのは16世紀ですから、それよりもはるか昔の5世紀の初めの時代では「いつ夜が明け、太陽が昇るのだろうか」という関心が非常に高かったのです。まして日本には四季があり、季節ごとに日の出の時間も異なるので「鶏が鳴く」ことで太陽が昇るのだという説が信じられていたのです。

今でこそ鶏は卵も含めて食用に飼育されていて、その存在意義は昔と全く違いますが、古墳時代は「太陽を呼び、魂の再生をもたらす鳥」として神聖化され、死者の魂を再生し、再びこの世に生まれ変わらせる神秘の鳥として崇められていました。

ちなみに、鶏がなぜ朝鳴くのか？という、鶏は縄張り意識が強く、「自分が一番ケンカが強いんだぞ」とアピールしているようで、朝鳴くのは雄鶏だけのようです。(2021年1月22日放送「チョコちゃんに叱られる!!」より) 朝一番に鳴くのは群れの中で最も強いボス鶏で、他の雄鶏に縄張りを主張するためであり、決して人間のために鳴くわけではありません。

文化財センター はにわ館&ギャラリー催し物予定

【はにわ館】入館料110円（18歳以下無料）開館時間は9:00~17:00です ※入館は16:30まで

第一展示室 ■常設展 「宝塚古墳の謎」

【ギャラリー】入場無料

第1~3ギャラリー ■第62回 松阪市美術展覧会 第1部 (絵画、彫刻・工芸)
9/26(日)~10/3(日)9時~17時まで ※最終日は15時まで
◀ギャラリーの開催予定は8月26日(木)時点であり、今後変更することがあります▶

— 8月28日(土)~9月12日(日) ※緊急事態宣言発令のため、臨時休館いたします。 —

<9月の休館日は13日(月) 21日(火) 24日(金)> 文化財センター情報はこちら

【発行】松阪市文化財センター 【☎】0598-26-7330
【HP】<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/>